第４回　利尻富士町教育委員会（定例会）会議録

会議招集年月日	令和　８年　９月　２日　（水曜日）			
会議招集の場所	利尻富士町役場			
開会・閉会の日時	開　会　令和８年　９月　２日　午後　１４時３０分 閉　会　令和８年　９月　２日　午後　１６時０３分			
出席・欠席委員 出席　５名 欠席　０名	氏　名　出欠		氏　名　出欠	
	教育長　吉田　秀昭　出 職務代理者　佐藤　吉郎　出 委　員　寺島　信宏　出		委　員　成田　明美　出 委　員　廣澤　恵美　出	
会議録署名委員	原本署名済			
会議録　作成者	次長	山谷　文人		
委員の他に議場に出席した者の氏名	次長	山谷　文人		
議　事　日　程	１日限り			
会議に付した議　案	**・議案第１９号**　令和８年度一般会計歳入歳出教育費補正予算（９月補正）について **・議案第２０号**　利尻富士町教育委員会点検・評価報告書について **・議案第２１号**　令和８年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の公表について ・その他 ・建設事業進捗状況について ・宗谷管内市町村教育委員研修会について			
会議の結果	・議案第１９号～第２１号：原案可決・承認 ・その他　報告			

第４回　利尻富士町教育委員会議事内容

令和８年９月２日（水）開催

教育長	１４時３０分開会を宣言し議事に入る。 夏休み期間中に大きな事故等の報告もなく学校活動が無事に再開されたことに安堵しています。一方で、先週あたりから新型コロナウイルスの発症者が散見され、体調を崩している児童生徒もおり、感染防止と体調管理について喚起します。また、中学校の生徒が東京方面への修学旅行（3 泊 4 日の日程）に無事出発し、明後日の帰着に向けて元気に活動しており、無事の帰着を祈っているところです。本日は全員出席により会議は成立いたします。
日程第　1	**日程第１　会議録署名委員の指定** 廣澤委員を指定
日程第　2	**日程第２　会期の決定**　９月２日、本日１日限りとする。
日程第　3	**日程第３　令和８年第３回会議録の承認**　承認される。
日程第　4	**日程第４　報告事項** **【事務局説明】**別添資料により、前回（7 月 8 日）の第 3 回教育委員会以降の主要行事実績および 9 月の行事予定について説明報告。 9 月から 10 月にかけて、各校にて 6 名の教育実習生の受け入れが予定されている。
日程第　5	**日程第５　議案第 19 号　令和 8 年度一般会計歳入歳出教育費補正予算（9 月補正）について** **【事務局説明】**歳出の教育委員会費において、「マクドナルド奨学基金支援の会補助金」として 100 万円を補正計上するものです。これは毎年実施している、利尻高校生を対象としたアメリカ（オレゴン州アストリア市等）への短期留学補助金です（利尻町と同額）。今年度の短期留学期間は 10 月 12 日から 10 日間の予定で、参加生徒は利尻高校２年生と３年生の２名です。参加者は、英語検定の要件を満たし、学校で選抜・決定しています。引率教諭も１名おります。 **【審議・質疑応答】** 佐藤：この補助金は、以前は 30 万円程度だったと記憶しているが、現在は 100 万円になっているんですね。 教育長：急激な円安や原油高に伴う航空運賃・現地滞在費の高騰もあり、増額して対応しております。

	寺島：以前は「支援の会」などで寄付金を募る等の活動も行われていたが、現在は町からの補助金で負担している形なのか。 教育長：決算等を確認しても、両町が全額を支援する形となっております。 廣澤：この短期留学は、「行きたい」と希望する子はたくさんいると思う。定員の枠（人数）を増やすことはできないのだろうか。自己負担分を払ってもよいと思います。 成田：留学のハードルを下げて門戸を広げれば、「留学を経験するために利尻高校に進学しよう」という生徒が増え、高校の魅力化や生徒確保にも繋がると思います。 教育長：マクドナルドの墓碑があるオレゴン州アストリア市への訪問にこだわらなくても、もっと利便性が高く多様な経験ができるようになればとも思います。どうしても移動行程が遠回りになり、旅費や時間がかかっている面もあるかもしれない。 成田：内容についてですが、過去に参加した生徒の様子を写真等で見ると、お墓参りの場面などが象徴的で、生徒自身も「あそこに行かなければならないものだ」と理解して臨んでいる印象があります。 （承認）
日程第　6	**日程第 6：議案第 20 号 利尻富士町教育委員会点検・評価報告書（令和 7 年度分）について** **【事務局説明】** 本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、毎年 9 月の町議会決算時期（決算審査）に合わせて提出・報告するものです。令和 7 年度の教育行政執行方針に掲げた各種教育施策の管理・執行状況について、自己評価や意見を整理・点検し、教育行政の不断の改善と町民の皆様への説明責任を果たすことを目的としています。本日、委員の皆様にご承認いただいた後、一部の手直しや字句修正等を行い、来週開催予定の町議会定例会にて報告をさせていただく予定です。 **1. 報告書の基本構成と教育委員会の活動状況（1〜5 ページ）** 本冊 1 ページには、点検・評価の趣旨や対象である 4 つの主要施策が示されております。　また、2〜4 ページにかけては「令和 7 年度における教育委員会会議の開催及び審議状況」として、定例会が計 5 回開催され、19 の議案について審議・承認された実績をまとめております。5 ページには「教育委員会会議以外の活動状況」を掲載しております。 **2. 主要な施策の点検・評価（6 ページ〜19 ページ）** 主要施策につきましては、執行方針に基づく 4 つの柱につい

	て、それぞれ具体的な取り組み、自己評価（成果・客観データ分析)、今後の課題と改善策をまとめております。 **施策①：学びの継続性を確保する小中一貫教育の推進** 一貫教育3年目として、乗り入れ授業やコアチームでのカリキュラム協議を継続しました。全国学力調査では中学校3年生の国語で平均正答率 64%（全国平均比+9.7p）に達するなど系統的指導の成果が出た一方、小中ともに数理領域の「思考・判断・表現」および家庭学習の定着が引き続き課題となっています。 **施策②：個別最適な学びのための学習基盤の整備と活用** GIGAスクールセカンドステージ等に準拠し、児童生徒用151台・教職員用70台の計221台の学習用端末を更新しました 。日常的なICT活用率（ほぼ毎日使用する：小学校64.3%、中学校 87.5%）は全国を 30 ポイント以上上回り日常化しています 。また、AIドリル「キュビナ」の利活用は、特に鵡泊中学校において極めて高い実績を上げており、他校にもよい影響を及ぼしました。 **施策③：学校と地域との接続性と人づくり** サッカーやバドミントンなどの部活動地域移行（展開）が、平日・休日ともに定着し、また、野球についてもクラブでの活動が活発に行われています。 地元の国保病院や自衛隊と直結した「1 日防災学校」の実施、町と北海道医療大学との包括連携協定による後ろ盾があるなか、学校におけるカウンセラー巡回のみならず、延べ 54名が参加した「フレイル予防教室」の開催など、多角的な地域接続と精神的ケアを推進しました。 **施策④：持続可能な社会の創り手となる社会教育の推進** 全国体力調査では小5男子（合計点55.40点）・女子（62.33点、全国比+8.36p）ともに標準を圧倒する成果を収めました。一方で、中2女子の体力低下傾向がみられます。 利尻高校への端末購入費助成（実績 12 名）などの新たな支援、および町内小中学生の学校給食費の完全無償化の継続について記載しております。 **【審議・質疑応答】** **（キュビナの活用と家庭学習の矛盾について）** 成田：施策 1「小中一貫教育」および施策 2「個別最適な学び」の記述を読んでいて、少し矛盾を感じる部分がありました。報告書には「AI ドリル『キュビナ』の活用状況や解答数は全国トップクラスである」と極めて高い実績が誇らしく書かれているのですが、その一方で、後半の

	課題として「家庭学習の習慣が定着しておらず、家庭での勉強時間が少ない」と記述されている。キュビナで宿題や課題が日常的に出され、全国トップレベルで使いこなしている（＝たくさん解いている）はずなのに、なぜ「家庭学習が定着していない」という結論に結びつくのか、文章の整合性が取れておらず、読み手として理解しづらい。 教育長：この「全国トップクラスの活用率」というのは、町内全校ではなく、鴛泊中学校が学校全体でランキングに挑むなどして突出して取り組んだ成果です。一方で、報告書全体の総括としては町全体の平均値や小学生の家庭学習時間の少なさを課題として挙げているため、一読すると「キュビナを全員がもの凄く使っているのに、家庭学習は全くしていない」という、矛盾した表現と読み取れます。 廣澤：保護者としての感想ですが、実際にキュビナを使っている様子を見ていて、「自分でしっかりと問題を読んで、考えて、調べてから解く」という、自立的な学習をしている一方で、「よく分からない問題が出たら、適当に選択肢を次々とタップして、やっつけのようにただ回答数をこなしている」という実態があります。同じキュビナの「回答数」や「活用時間」としてデータに表れていても、取り組みの質に極めて大きな個人差があるように感じます。 次長：議会への最終報告に向けて、実態が正しく伝わるよう表現を精査・手直しします。 **（学校給食における食の指導について）** 成田：もう一点、施策4の学校給食の部分で「給食時間における食の指導（食育）の推進に課題がある」と記載されているが、これはどのような経緯で出てきた意見なのか、学校の先生方や保護者へのアンケートからなのでしょうか。 次長：これは一般の先生方からというよりは、給食センターに勤務する栄養教諭からの課題提起によるものです。一般の小中学校の教職員は、大学の教員養成課程等で「給食の指導方法」を専門的に習う機会がほとんどなく、採用後の教員研修でも給食指導を対象としたカリキュラムはほぼありません。そのため、給食指導については個々にバラツキがみられ、基準がないのが現状です。 成田：確かに、教育実習等でも給食指導の時間にわざわざ明確な指導方針を教わることはないですね。基本的には各教員の個人的な裁量に任されてしまっているんですね。 廣澤：食事の時間などは家庭により本当に違いがあって、家庭の生活習慣や育ちの環境の差は非常に大きいと感じます。

	学校では集団生活なので、個々のバランスの舵取りは本当に難しいと思います。 次長：栄養教諭が定期的に各学校・学級を巡回して具体的な食育授業や指導方法の助言を行なうことや、教員研修の中で採り入れるなどの工夫が必要と感じています。 （承認）
日程第　7	**日程第 7：議案第 21 号 令和 8 年度全国学力・学習状況調査結果の公表への同意について** **【事務局説明】** 例年、文部科学省および北海道教育委員会より、市町村別の結果概要を Web ページ等で公表することへの同意を求められております。本町教育委員会として、これを「同意する」として回答し、速やかに結果を町ホームページ等で広く公表・共有することへの同意を求めるものです。 あわせて、手元の資料に基づき、4 月に実施された当町の小学校 6 年生（国語・算数）、中学校 3 年生（国語・数学・英語）の学力調査結果の集計・分析概要を報告いたします（※英語の「話すこと」のスピーキング結果については、本日 9 月 2 日公表のため、本資料には反映されておらず、次回教育委員会にて改めて詳細を報告します。 **学力調査結果の数値概要** **小学校 6 年生（児童数：13 名）** ・国語：平均正答率 64%（全国平均 60.9% を 3.1 ポイント上回る。全道平均 60% を 4.0 ポイント上回る） ・算数：平均正答率 55%（全国平均 56.4% を 1.4 ポイント下回るが、全道平均 54% を 1.0 ポイント上回る） **中学校 3 年生（生徒数：20 名。英語は 21 名）** ・国語：平均正答率 67%（全国平均 63.9% を 3.1 ポイント上回る。全道平均 63% を 4.0 ポイント上回る） ・数学：平均正答率 64%（全国平均 57.0% を 7.0 ポイント上回る。全道平均 55% を 9.0 ポイント上回る。前年度の町平均 45%から 19 ポイントの驚異的な大躍進） ・英語（筆記・聞き取り）：平均正答数 3.9 問（全国平均 3.7 問、全道平均 3.5 問と同等。平均 IRT スコアは 485） **問題別の特徴と分析** ・小学校国語：「読むこと」が 76.9% と全国（65.9%）より 11 ポイント高く、前年度（全国と同率）から大幅に改善しています。 ・小学校算数：「変化と関係」が 51.3% と全国（41.1%）より

	10.2 ポイント高い一方、「思考・判断・表現」の観点が 40.4%（全国比-5.0p）と低く、記述式の問題に課題があります。 ・中学校国語：「書くこと」が 78.3% と全国（67.4%）を 10.9 ポイントも上回り、卓越した表現力を示しています。 ・中学校数学：無解答率（空欄で回答を出さない割合）が、全国平均が 3 割近い問題であっても、当町は 10.1%（全国 26.5%）など極めて低い。「最後まで諦めずに、何とか自分の考えを記述して答えを出そうとする強い学習意欲」が数値として明確に表れています。 **児童生徒質問調査（生活・学習習慣）の特徴** ・主体性・協働性：「友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題解決に取り組んでいる」という肯定的な回答（協働性）が、小中ともに「100%（全員)」に達しています。 ・学校生活への意欲：中学校では「学校に行くのが楽しい」という肯定回答が 85.8% と全国並みだが、小学校では 38.5%（全国平均 85.7%）と、半数を大きく下回り極めて低い深刻な数値が出ています。 ・ICT 活用：学校の授業でタブレットを「ほぼ毎日使用する」という割合が小学校 53.9%、中学校 85.7%（全国 55.1%）と、全国平均を圧倒的に上回り日常化しています。 ・家庭学習：平日に家庭で「1 時間以上」勉強する割合は小学校 21.4%（全国 54.0%）、中学校 50.0%（全国 61.6%）と低調。ただし「全く勉強しない」という児童生徒は小中ともに「0%」です。 **【審議・質疑応答】** 教育長：今回の全国学調の結果について、私から補足します。一言で言って、「今年は素晴らしい」です。学力が極めて高いことで知られる北陸地方などに、当町の平均点が匹敵しています。特に、鴛泊中学校の数学は、平均正答率が「71%」に達しており、全国平均（57.0%）より 14 ポイントも高く、全国でもトップクラスと思われる数値です。 先般の管内教育長会議でも、他の市町村では「学調の平均点が下がった」というなかで、本町の成果が上がったことについて話すことができました。 学校の先生に「なぜこれほど数学が伸びたのか」と分析を求めたところ、生徒が「誰も脱落せず、みんなでこのテストをやりきるんだ」という意志や朝の学習

	時間に基礎プリントを徹底しただけでなく、生徒自身が「自分はここが弱いから、今日はこの単元をキュビナ等で重点的に補強しよう」と主体的に判断する『自己調整学習力』が自然と身についた成果だと言っていました。また、鴛泊中だけでなく鬼脇中も非常に高い伸びを示していまして、昨年度から先生の指導方法が変わったということを聞いています。 廣澤：これは、先生方のサポート体制の成果でもあるのではないでしょうか。校長先生が、自ら生徒の提出用課題のチェックに関わり、直接励ますなど、学校全体で意識を高める工夫をされていたようです。 （承認）
日程第　8	**日程第８：その他** **(1) 建設事業進捗状況について** **【事務局報告】** ・鴛泊スキー場ヒュッテ建設工事（株式会社雨森組） 契約期間：令和８年７月 22 日～令和８年 12 月 28 日 現在、基礎工事が順調に進行中。 ・鴛泊スキー場ヒュッテ建設工事監理業務委託（北海道建築設計監理株式会社） 契約期間：令和８年７月 22 日～令和９年１月 16 日 ・鴛泊スキー場投光器更新工事（利尻電業株式会社） 契約期間：令和８年９月１日～令和８年 12 月 25 日 **(2) 宗谷管内市町村教育委員研修会について** 日程・内容説明 **(3) 新任外国語指導助手（ALT）の紹介** **(4) 短期体験入学の受け入れ** **【事務局報告】** 神奈川県から短期滞在されるご家庭から、地元の保護者を通じて「離島での学校生活を子供たちに経験させたい」との申し出があり、数日間ですが短期体験入学を受け入れることとなりました。 **【審議・質疑応答】** 成田：都会の保護者の間では、こうした数週間から１ヶ月程度の「地方短期留学」や、親子で移住して自然の中で過ごす「保育園留学」へのニーズが非常にあると思います。

	お試しで島の学校や大自然を体験させてみたい」というライトな要望であれば、行かせたい家庭は全国にたくさんあると思います。 廣澤：受け入れるとなると「滞在中の住居（住宅）をどう確保するか」という問題がありますね。公募するとなると、町側で空き家や住宅など滞在場所を準備する必要も出てくるかもしれないですね。 教育長：今後もこうした動きが出てくると予想されるので、制度化していこうと考えています。 以上で、第４回教育委員会に示された議件を全て終了しました。会議を終了します。（１６時０３分）